令和４年度

第２次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会

会　　議　　録

日　時：令和５年（2023年）２月14日（火）
会　場：札幌市農業支援センター２階会議室

札幌市経済観光局農政部

開　催　概　要

●日時　令和５年（2023年）２月14日（木）14時～16時

●場所　札幌市農業支援センター２階会議室

●次第

１．開　会

２．議　事

（１）第２次さっぽろ都市農業ビジョンの中間評価について

・中間評価の概要と後期の取組

・時期ビジョン策定に係る想定スケジュール

・質疑・意見交換

（２）令和４年度の進捗状況について

・基本理念及び基本的な方向

・アクションプラン

・質疑・意見交換

３．閉　会

〔配布資料〕

資料１　第２次札幌都市農業ビジョン推進懇話会委員名簿（第３期）

資料２　第２次札幌都市農業ビジョン推進懇話会設置要綱

資料３　中間評価の振り返り

資料４　令和４年度 さっぽろ都市農業ビジョン進捗状況調書（①～③）

●出席者

委　員：宮入　隆ほか８名（配布資料１参照）

札幌市：高田　　洋　（経済観光局農政部長）

石橋　英二　（経済観光局農政部農政課長）

佐々木　久美（経済観光局農政部農業委員会担当課長）

高栗　仁子　（経済観光局農政部農業支援センター所長）

議　事　録

１．開　会

●札幌市　定刻となりましたので、ただ今より令和４年度第２次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を開催いたします。

本日の司会・進行を勤めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、主催者を代表しまして農政部長よりご挨拶差し上げます。

●札幌市　今日は、令和４年度第２次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会の開催ということで、一言ご挨拶をさせていただきます。今日は、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。日頃、それぞれのお立場で札幌市の農政についてご尽力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

この懇話会なんですけども、この２年間、感染症拡大の影響で書面開催ということになりまして、皆様から貴重なご意見をいただいて昨年度、中間評価報告書という形でまとめさせていただきました。改めて感謝を申し上げます。

いま先が見えない社会状況が続いておりますけれども、感染症拡大後の価値観の変化ですとか、ウクライナ情勢により国際的に食料問題に意識が高まっている状況、背景、そういった中で、札幌の農業を改めて見直す。こういうことが大切なのかなという風に考えてございます。

一昨年に、農林業センサスが発表になりましたけども、札幌の農業は依然として農家戸数の減少ですとか農地面積の減少が進んでおります。

今後も、新たな担い手の確保に取り組むとともに、既存の農家に対して、しっかりと支援をしていかなければなりませんし、また、消費者の農産物に対する安全・安心なものへの関心、それから農的な活動へのニーズが高まっているかと思います。これらにも応えていかなければならないというところでございます。

このビジョン、令和３年度から後期の５年間がスタートしております。中間評価で浮き彫りとなった課題と向き合って、次のビジョン策定を見据えて事業に取り組んでいきたいと考えております。

今日の前半はですね、中間評価の振り返り、後期の取組へ繋げるということと、次のビジョン策定のスケジュールを共有しまして、後半に令和４年度に実施した施策による成果の達成状況を報告させていただきます。

今日は、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂ければ幸いでございます。　本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●札幌市　それでは、ここからは座って説明させていただきます。まずはじめに、本日の

出席者のご紹介をさせていただきます。

お配りしております資料の１ですけれども、ご覧ください。本日は９名の方全員に出席いただく予定になっております。

当懇話会は、新型コロナウィルス感染症の影響によりまして、令和２年度・３年度と２年続けて書面開催でございましたが、初めての方もいらっしゃると思いますので、簡単ではございますが、この名簿順にご紹介させていただきます。

北海学園大学経済学部地域経済学科教授の宮入委員でございます。

札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科教授の百々瀬委員です。

札幌市農業委員会会長の浅井委員です。

サツラク農業協同組合代表理事組合長の長濵委員です。

札幌市農業協同組合青年部長の大畑委員です。

札幌市農業協同組合代表理事組合長の軽部委員です。

札幌市農業協同組合女性部長の菅原委員です。

公益社団法人札幌消費者協会監査監事の行方委員です。

一般社団法人日本野菜ソムリエ協会認定の野菜ソムリエ上級プロの吉川委員はまだご到着されていません。到着されましたら、ご紹介いたします。

まず会を始める前に皆様にお願いがございます。

本日の議事につきましては、会議録を札幌市役所公式ホームページで公開する都合上、録音すること、内部の報告用に写真を撮りますことをご容赦願います。

なお、会議録につきましては、発言された方のお名前は公表いたしませんのでよろしくお願いいたします。

次に、議事の進め方ということで、「次第」をご覧いただきたいと思います。

本日の進め方ですけれども、はじめに２番「議事の(1)」では、事務局から、昨年度のおさらいとしまして中間評価の概要と後期の取組等についてご説明させていただいた後、質疑・意見交換を行います。

10 分程度の休憩をとりまして、後半は「議事の(2)」令和４年度の進捗状況について説明させていただき、質疑・意見交換を行います。

それでは、よろしくお願いいたします。

２．議　事

●札幌市　まず、議事(1)の「第２次さっぽろ都市農業ビジョンの中間評価」について説明いたします。

農業ビジョンでは、平成 28 年度から令和７年度まで 10 年間の計画で、令和２年度に前期５年間が終了したことから、皆様にご意見をいただきまして、令和３年 11 月に中間評価報告書をまとめたところです。

簡単に、前期の取組状況と後期の取組内容について振り返りたいと思います。

お手元の資料３、Ａ３のカラーの資料になります。１ページ目の中間評価の振り返りをご覧ください。

中間評価の説明の前に、まず、ビジョンで位置付けている施策の体系や中間報告のイメージについて簡単に説明させていただきます。

左側は平成 28 年度に策定されたビジョンに掲載されている農業施策の体系です。

上から濃い青色の「基本理念」、その下に、基本的な方向と取組の方針について、水色・うす緑色・ピンクと３色に着色されて記載がございます。

ページの右側には中間評価報告のイメージ図がありますが、前期の達成状況を評価し、後期へ継続することを基本としつつ、関係制度が変更したもの等につきましては修正や新たな取組みを追加するなどの設定を行っております。

次に２ページ目の表「中間評価の概要と後期の取組」をご覧ください。

昨年度の書面会議資料としてお送りした資料と同じ内容になりますが、着色部分につきましては１ページ目の体系と連動しておりまして、それぞれの目標に対する達成状況が記載され、中間報告時点の令和２年度部分を赤い線で囲っております。

前期の評価としては、表の濃い青色部分ですけれども基本理念の目標である「札幌産農産物を『購入している』市民の割合」は増加しておりまして、後期でも目標達成に向け、アクションプランに着実に取り組みます。

次に、ビジョンの３本柱である「基本的な方向」のローマ数字ⅠからⅢですけれども、Ⅰは概ね目標が達成されている状況、Ⅱでは目標としていた「さっぽろとれたてっこ」の制度が、令和元年度に認証制度から産地表示制度へ変更されたため継続した評価ができなくなったことから、表の右側の後期の目標を「地産地消の取組件数」へ変更するとともに、後期アクションプランの目標、新たに「農産物の安全・安心向上のための土壌診断実施数」を設定しました。

基本的な方向Ⅲでは、新型コロナの影響を受け、実績が伸びなかった状況が見受けられます。

Ⅰ～Ⅲの後期の目標欄で、赤い文字で下線が引かれている部分が見直した部分になりますが、後期は市民の農業に対する理解促進のために、これまでの各種施策を継続することと併せ、サッポロさとらんどのリニューアルや魅力向上策の実施、ホームページや刊行物による情報発信、市民農園の利用促進策の検討などを進め、札幌の農業の一層の振興に努めてまいります。

以上のように中間評価を行いまして、後期の取組がスタートしておりますが、ここで、第２次農業ビジョンの次のビジョンである第３次ビジョンの策定の想定スケジュールについてご説明いたします。

資料の３ページ「第３次さっぽろ都市農業ビジョン策定に係る想定スケジュール」をご覧ください。

第２次ビジョンは、令和７年度までの計画となっておりますので、第３次ビジョンは令和８年度から 10 年間の計画となるところですが、この予定で進める場合、2025 年農林業センサスの結果や国の方向性を示す「食料・農業・農村基本計画」の見直しと時期が合わないため、ビジョンへの反映が難しい状況です。

これらを反映させるため、表２のとおり、第２次ビジョンの計画期間を２年程度延長し、令和９年度末までに第３次ビジョンを策定する方向で検討しております。

なお、第３次ビジョンは、都市農業振興基本法に基づく地方計画として策定し、これまで農業施策の対象としていなかった市街化区域の農業も含めたさっぽろの農業を振興する計画としたいと考えております。

第３次ビジョン策定までのスケジュールについては、まず、令和５年度は、次年度以降の調査結果等を集積していくための基礎データを整理します。

令和６年度は市街化区域にある農地の調査や他都市の事例を参照するなどして情報収集し、基本的な構想を策定します。

令和７年度は、農業者の意見聴取や関係機関との調整、市民意識調査等を行って、素案を作成します。

令和８年度には、市民委員を含めた検討会を数回開催して計画案を作成します。

令和９年度には、パブリックコメントの実施や市の企画調整会議など、必要な手続きを経て年度末までに策定する予定です。

なお、検討委員会は、当懇話会を基本として市民公募委員を数名加える形で進めたいと考えております。

それでは、ここで「質疑・意見交換」に移ります。

ここまで説明しました「中間評価と後期の取組」、「第３次ビジョン策定の想定スケジュール」に関して、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

書面会議が続いておりまして、時間も経っておりますので、ご不明なことですとか疑問に思うことでも結構ですので、質問等あれば宜しくお願いいたします。

●委員　非常に単純な質問で申し訳ないんですけれども、札幌市は都市化が進んでいて、札幌市の農業に私も随分前から消費者や農業委員として事業等にも関わってきたんですけれども、やっぱり絶対数は減っているんですかね。下降気味なんでしょうか、農業従事者は。都市化が進んで丘珠の奥の方は結構家が建っていて、たまに通って「あら、昔この辺ずうっと畑だったのにな」って思うことがあって、やっぱり、どんどん家が建っていくんだなっていうことを、その時実感したんですよね。それで、農業者っていうのはやっぱりどんどん減っているんじゃないかっていう風に思ったんですけれど、そういう状況はどうなんでしょうか。

●**札幌市**　国の方で５年に１度ですね、農林業センサスということで農家戸数ですとか農地の面積、そういったものの調査をしておりまして、直近が令和２年になるんですけれども、その前回が平成27年で807戸の農家戸数が５年後の令和２年には627戸に減少しております。この減少傾向というのは、ずうっと続いておりまして、減少の割合そのものは極端に大きくなってはいないですけれども、確実に農家戸数、農地面積とも減少しているという状況はずうっと続いております。

●**委員**　分かりました。私は滅多にこっちの方まで来ないんですけれど、何かの折に通った時に昔来た時より新しい家がどんどん増えていて、「この辺、農地だったはずなのにな」って。農業応援団とかで札幌市の事業で昔からやったりしたもんですから、こんな所まで家が建っているんだっていうのが実感だったんで、質問させていただきました。有難うございました。

●**委員**　ちょっといいですか。今「こんな所まで家が建ったんだ」って話がありましたけれども、家は何処でも建てることが出来ないんですよ。畑の真ん中に家を建てるってことは色々条件が整わないと。多分、家が建ってるってことは市街化区域で。農業委員会に届け出すれば家を建てられますよっていう許可が出るんですけども､そういう土地でないと。家が増えてるっていう話では、多分、市街化調整区域では建たないと考えますので。

●**委員**　有難うございました。

●**委員**　いま色々農地のお話と担い手のお話ありましたけれども、北海道全体でもこの30年間で農家戸数は半減以下になっているんですよね。私が30年前に長野から出てきて、90年代の初頭で大体８万戸弱位の農家戸数あったのが、今は３万数千戸位で、札幌市のどこに特徴があるのかっていうと、担い手の減少よりもやはり農地転用ですね。農地が減少しているのはですね､やっぱり他の市町村別にみると個別経営でも規模拡大していますので、そういう意味で農地があまり減っていないんですけれども、私が来た30年前は大体約４千ha弱、札幌市内だけであったんですが、それが今1,500～1,600haになっていますよね。そういう意味で本当は転用できないはずなのに、転用も、色々市街化調整区域も広がったりとか、農地の土地利用の形が都市全体として札幌の農業だけの問題でなくて、都市計画の問題でもありますし、そういう中での農地の減少が非常に激しいのは、北海道内でいうとやっぱり札幌市の１つの大きな特徴かなと思います。農家戸数の減少以上にですね、これはやっぱり特徴的なところになっております。

●**札幌市**　いま農家戸数と経営耕地面積の話があったんですけども、農地面積が減っているという話なんですけれども、私もずうっと見てきてですね、農家戸数の減少と農地面積

の減少、グラフになるといずれも右肩下がりになってきているんですけれども、実は、近年をよくよく見ると減少は減少なんですけれども、農家戸数の減少の方が激しく右肩下がっております。一方、農地面積というのは担い手への集約ということでですね、色んな取り組みをしているんですけども、担い手とされている人達に農地の集約をしてるという分も、実はその減少に歯止めをかけているという部分ではあるかと思います。それで、我々の事業や施策もですね、担い手に農地を集めていこうという様なことで進めていっているところもあるのかなと思いました。

●**委員**　ビジョンのこれからの想定スケジュールっていうところで、制度との切り替えに合わないってことで、とりあえず２年間延長するってことなんですけども、一般的に見ると新しいビジョンが決まるまでに色々と対応が遅れちゃうんじゃないかなという見方もされてしまう様な気もするんですよね。特に、いま出たような担い手の問題ですとか農地の維持にしても、いずれにせよ札幌市の場合、喫緊の課題になっていますので、次の計画まで延長はするんだけども、その期間に何かあれば速やかにやっていくみたいな文言が入っていた方がいいのかなと。勿論そういうことだと思うんですけれども。

●**札幌市**　有難うございます。国の方の制度がですね、時代の変化に合わせて新しい施策なり、いま継続されているものも見直しというのが進んでおりまして、当然、我々の方も札幌市の農業者、それに対応できる様な形で進めていかなければなりませんので、単純に２年延びるということではなく、その間にある変化に対しても当然、的確に対応していきたいと考えております。そういう意味でも毎年度、こういった形でビジョンの振り返りをしておりますので、反映させていきたいと考えております。

●**札幌市**　いま、ビジョンの策定スケジュールということなんですけども、適宜、見直しをしていかなければならないというのは、本当にその通りだと思っております。いま、水田転作制度も見直しをされまして、札幌市は400haくらい水田転作地があるんですけども、いますごい勢いで転作田、要するに水田が畑に転換していっております。国の方も飴玉みたいなものを与えて畑に換えさせているということなんですけれども、そういった条件が「５年間、畑を作りなさいという」ことなんですよ。そうしますと、去年くらいからそういう制度が始まって、８年くらい経つと、「作りなさい」といっていた期間が終わって、その後、何を植えていくのか、どうやってそこで経営を成り立たせていくのか、そういった大きな課題もありますので、そういう意味では適宜、毎年こういう状況を見て、そのタイミングに合わせた取り組みをしていかなければならないという風に考えております。

●**委員**　質問をお願いいたします。初めてここの会議に入ったので、皆さんは知っていて私が知らないだけのことばかりだと思うのですが、資料３の素案作成の所の「市民意識調

査」、それから計画案作成の所の「検討委員会」のメンバーをお伺いします。この市民意識調査というのは、どのような方法でどれくらいの市民に、どんな方に答えていただくというイメージをされているのかというのが１点、あと、検討委員会のメンバー、公募委員はどんな方に入っていただきたいとか、そのあたりのお考えがあればお聞かせいただきたいと思いました。お願いします。

●**札幌市**　市民意識調査につきましては、札幌市の方で毎年４回ほど対象者５千人程度を抽出して実施しておりまして、現ビジョンにつきましても意識調査の結果を基に数字をまとめているところでございます。ですので、次のビジョンの策定にあたりましても札幌市の市民意識調査の制度を使いまして、概ね５千人程度の方にアンケートをとるような形で農業に関して、都市農業ビジョン、札幌市の農業の内容についてお聞きして数字をまとめていきたいという風に考えております。検討委員会なんですけれども、まだ具体的なところまでは考えてはいないところなんですが、現ビジョンにつきましても今回お集まりいただいております委員の皆様方と同じ様な形で、農業の分野なり、それぞれの学識経験者の分野であり、そういったところからの専門的な意見を頂く委員の方と、その他、公募で数名の市民委員を募集して委員会を構成したいと考えているところでございます。

●**委員**　そういうメンバーで委員会が作られると、結局農業に関心のある人達の意見でまとまってしまう。そうなると、また関心のある人と関心の無い人との差が逆に出てしまうかなと思います。全然農業に関心が無い人もメンバーに入っていかなければ、本当の市民の意識が入らないなっていうのは、いつもこの会議でも感じています。本当に広く色んな立場の人達の構成でしていった方がいいと思います。

●**札幌市**　有難うございました。確かに、普通にスーパーで野菜を買う方っていうのは、そういった方の意識っていうのは、なかなか我々も見えないところもありますので、広く色んな方の市民の意見というところで考えていきたいと思っております。

●**委員**　そして、質問がバラバラで出るのも変なので、ジャンルとか何か方法が無いんですかね。素朴な疑問ばかり言っていったら、会議にならない気がするんですが。何か決めて、その点で質問が無いかとか。

●**札幌市**　まずは一旦、昨年の中間報告の取りまとめに関しまして、おさらいということでの質問にしたんですけれども、時間が経っているということもあって、質問なり何かないかなということで話を聞いたところではあります。それで、第３次都市農業ビジョン、次のビジョンの策定に関してのご意見を伺ってご意見が出たところなんですが。これまでの中間報告に関して目標を見直したりですとか、そういったところもございましたけれど

も、そういった点について質問等あればお願いしたいなと思いますが。特に振り返りに関して質問が無いということであれば、中間評価の方に関しては終わりまして、第３次都市農業ビジョンの策定の想定スケジュールに関しましてご質問・ご意見ございますでしょうか。

●**委員**　先程の質問とも関連するんですけれども、こちらの想定スケジュールに載っているのは、食料・農業・農村基本計画とセンサスの関係、それからもう一つ重要な口頭で仰られていた都市農業基本計画策定年のところ、あれは札幌都市農業ビジョン自身が都市農業基本法にのっとってやってるよということですよね。

●**札幌市**　はい、そうです。

●**委員**　法律自体が何か変わる可能性とか、時限立法だったとか、そういう訳ではないんですよね？

●**札幌市**　都市農業振興基本法に関しては、その後、変更とかそういったものは無くて、特に策定は法律では努力義務的に定められておりまして、いつまでにといった縛りも無いということもありまして、今回のビジョンの見直しと併せて進めていきたいという風に考えております。

●**委員**　素人の質問で申し訳ないんですけれども、札幌市の農業に対して今まで私も何年か関わってきているんですけれど、都市化が進んで、私のような素人にすれば農業って天候にも左右されたり大変なお仕事だなって思うし、肥料なんかも値上がりしてたり、後継者がいないとか、そういうことで、どんどん減っていくんじゃないかなっていう思いがあるんですけれど、今後の見通しとして札幌市の農業はこのまま続いていくのか、それとも宅地化が進んでいくのか、札幌市の方はどういう風に見ているのかお聞きしたいなと思います。

●**札幌市**　減っていくんじゃないかっていうのは、本当にその通りではあるかと思うんですけども、私達は札幌から農業が無くなることはないだろうと思っていますし、その中で色んな農業の形が生まれてくるのかなっていうのは考えています。非常に企業的な農家さんが現れたり、プロフェッショナルな農家さんが現れたり、逆に農業と普段の生活を兼業するという様な方が現れたりだとかということで、農地は農地としてこれからも耕作していくことを目指したいという風に考えています。

　余談ですけれども、去年から札幌市の人口が減少し始めました。そうなると、今ある街の大きさというのは本当にこれ以上必要ないんですね。そうなってくると、市街化区域の

中にある農地でさえも何らかの役割というか、市街地で住んでいるところの隣の農地というのが大事な役割を果たしていくんじゃないかという風に我々は考えておりまして、今回、第３次のビジョンの策定ということで、市街化区域の中にある農地をどういう風に考えていくかっていうことを１つのテーマとして考えていきたいし、札幌の新しい農業の形や役割をこの中に盛り込んでいきたいという風に考えております。答えにならなかったかもしれないですけれど、そういうことを考えております。

●委員　新しい農業の話になったので、私の最近の経験とかを話しますと、コロナ禍になって手の空いている暇そうなＯＬさんに「外に出れない分、農家さんの手伝いをしませんか？」と言って連れて行っていました。車が無い人が多いので、私が運転して連れて行って２時間くらい農作業する。これくらいは全然苦ではなく、結構それがクセになった人達もいて、週に２～３回、自分の家の近所の農家さんのところに自主的に行く人も増えました。小別沢の農家さんで無農薬でやっている方ですけれども、無人のマルシェやってて、そこにレストランシェフも買いに来たり、定期的に買い物する人も増えてきたりして、やっぱり都市農業っていうのは農家さんだけではもう成り立たなくなっているのが見えてきている。販売するのもそうですし、買う側、作る側も。それが都市農業かなと思います。私、「札幌農業と歩む会」に参加していますが、札幌の新しい農業、農家というか「農業スタイル」というか「経済スタイル」かな。どちらかというと農業は、農業だけではない経済サイクルの一環かなと。農業だけではなくて、もっと大きい札幌市の経済をどうしていくかを最終的にどうしていくかを考えていかなくてはいけないことかなと、ちょっと思ったりします。結構、色んな所で農家さんの物を扱って販売してくれる喫茶店っていうかカフェっていうか、そういう人達も増えてきているので。農家さんが困っているのは販路。実際自分が売ろうと思ったら採る人がいないとか。だから、私、代わりに大丸で販売とか手伝いますけれども、そうやって支え合っていくと、さっき仰った様な農地も守れていくのではないかと思います。千葉の「いすみ市」では、給食が全部有機になっていっている話もあります。一部では農業を知らないのに有機の給食を札幌市の野菜で全部作ってほしいとか言う人達がいますけど、現実はやっぱり無理で、でもそうやっていくためには、大人達がそこそこ色々考えて食育も色んなところからやっていかなくてはならない。感想みたくなりましたけれど、そんな風に考えていました。

●委員　今の話とも関連するんですけども、農協と青年部でも各種ＰＲ活動を行っていまして、青年部がどういう農業をしているかっていうのを市民の皆さんに伝わるように頑張っているんですけど、ＰＲのやり方によって農業者がやる気が出るか出ないかってところに大分関わってくると思うんですよね。やっぱり素敵なＰＲが出来れば青年部の皆も「あ、ちょっと頑張ろうかな」っていう気持ちになるというか。普通だったら、収入に直結するような活動をしたら一番いいんじゃないかって思われるかもしれないんですけれど、青年

部ではそういう活動よりも農業者が元気になるＰＲに重点的に取り組んでいまして、そういう方面で札幌市の方でも「儲からないから」ってことじゃなくて、農業者が元気になる様なＰＲを小さくてもいいから沢山やってもらえれば、今いる農業者もやる気が出るし、新しくやりたいなって人も出てくるかなと思うんですよね。そういう意味でもイベントだとかも力を入れて取り組んでもらいたいなと私は思っています。

●**札幌市**　そうですね。本当に、積極的にＰＲしていくことがすごく大事で、さとらんどが十分に機能しているのかなっていうところは、これは我々の自戒というか、そういうのがあってですね、こういう施設がありますから、ここを上手く使って積極的に元気になる様なＰＲを考えていきたいなと思っていますし、さとらんどはさとらんどで限られた場所になっていますから、それぞれの各地区でミニさとらんどじゃないですけれども、そういう拠点みたいな形で何か取り組みが出来たりする､そういうのはとても良いかなというか、そういうのを目指したいと思いますね。さとらんども来年度から指定管理者が代わって、新しい取り組みもスタートしようという様なことを考えていますので、ぜひ青年部さんのご意見も聞かせていただきながら進められたらなという風に思っています。

●**委員**　有難うございます。それで、こういうイベントを沢山やっていらっしゃるんで、アンケートも取っていると思うんですよね。そういうところから「こういう意見が多かった」とか、「こういう要望が多かった」っていうのをこの場でもいいから紹介していただければ、皆さん知識があると思うので意見交換がスムーズに進むと思うんで、そういうのも取り入れてもらいたいなと思います。

●**札幌市**　有難うございます。今回、資料でご説明しているという形ですけれども、実際に現場でどういう声があがってきているかですとか色んな情報をまとめた資料を、この様な場で皆さんにお示しして意見交換出来たら、我々の方の農業施策といいますか業務においても参考になると思いますので。今後、さとらんどに関しては指定管理者が代わって新しい取り組みということで、また動きも変わってくるかと思いますので、生の情報も提供していきたいという風に考えます。有難うございます。

●**委員**　私からも一言、ご意見を述べさせていただきたいと思います。今うちらも当然一次産業主体の農協でありたいと、そういう形を考えていますが、やっぱり都市農協の宿命でどうしても信用共済がメインになってしまっております。その中で、今回の３年間の中期計画の中のテーマが「農業の持つ価値の発信」ということで、「一次産業の大切さ」ですとか食育含めて「食料の大切さ」、そういうのを皆さんに知らしめるっていうか、そういう動きをするのが我々の組織の一つの方向性だという形で進めております。もう一つは都市近郊農協・農業という捉え方でいくと、今考えているのが隣のＪＡ石狩さんとの合併。

新聞報道でもありましたけれども、合併を機に色々な形で進んでいる大規模経営農協・農業を含めた事業に繋げていきたいと、そういうのも大事かなと思っております。先程、部長からもお話ありましたけれども、世界情勢が不安な中で、本当にお金を出せば食料が手に入るのかって、皆さんが当然大きな希望を抱えていると思うんですよね。そういう意味では我々が食の大切さってことを我々の組織の中で大きなテーマとして皆さんに訴えていかなきゃならないなと。それは行政と一体化して取り組むべき問題なんですけれども、常に農業に対する捉え方、我々職員200人含めて、農協のあり方を含めてですね、市民の皆さんにどんどん訴えていくことが大事かなと思っております。去年、一昨年と色々と食育活動を含めた中で、例えば圃場に行って色んな食育活動をやっておりますけれども、畑に行って子供達がナスビを植えたり収穫することを本当に喜んでやっている姿を見て、「やっぱり食の大切さを我々が伝えていかなきゃならないな」と常に思っていますんで、行政と一体になった形で前に進んでいきたいと思いますので、宜しくお願いしたいと思います。以上です。

●委員　いま皆さんのお話を聞いて、やっぱり生産が無いとダメだというのは間違いなくてですね、多面的機能というのは外部経済効果ですので、生産があったり営農があって初めて成り立つと。だから今、農地面積でいうと担い手への集積は1,000ha～1,200ha位でってことでいうと、産地として考えたときにギリギリのラインであると思うんですよ。それで皆さん、都市農業だったり都市近郊農業だったりっていうところで札幌市農業を評価しがちなんですけれど、札幌市農業の多様性って、もともとで言えば「札玉連」があったりとか、タマネギの大産地の出発点は札幌なわけですよね。だから、「北海道らしい産地形成の出発点」が札幌であるし、「都市農業」という二面性を持っているのが北海道の中での札幌市農業であって、札幌市の農業者の方々を元気にするにも、そこの歴史というかですね、いま「札玉連」は無くなってしまいましたけど、「サツラクさん」がなぜ札幌圏内にあるのかっていう。これはやっぱり、専門農協さんとしても、こういう風な形の残り方とかですね、都市近郊にもともとで言えば市乳販売事業の始まりがあったからこそっていうところとか、そういったところも含めて考えると、これからの計画の時もですね、多様な担い手は都市農業で多様な担い手でそうなんですけれども、もうちょっと具体的に札幌市の農業者の方々の持っているものの蓄積というか、それが分かりやすい形での多様性というかですね、北海道農業の出発点だし大産地的な側面もあるし、一方でより都市農業的な側面というか少量多品目の部分もあるし、それを併せ持って多様化してきたんだってことが、どこかで書いておく必要があるかなと思います。その上に営農があって初めて多面的機能が付いてくるんだっていう様な。だからこそ、合併の話っていうか営農の部分でっていうのも大事ですし先程、近くに営農のお手伝いに行って、継続してくれるリピーターさんが増えるっていう話ですね。あれ、石狩市あたりでも「グリーンサポーター制度」とかも支持されていて、お隣さんですけれども色んな形で学びながら私達もやっていったり、

既に札幌市で行われている実践なんかも上手くクローズアップして取り上げて、農業への関わり方が色々で間違いなく多品目野菜産地であろう札幌市にとっては、労働力不足なんですね。経営者の経営能力とかマーケティング能力とかもすごいあるんですよ。でも労働力が無かったら、やっぱり野菜はこれ以上増やせないっていうところもあるんで、土地と労働とかそういったところでの関わり方とか、新たなところを模索しながら経済と多面的機能とかそういったところがリンクする様な形を描いていくのが必要かなという風に聞いていて思いました。

●委員　確か人材派遣業を取っている農協さんは、一般の人を募集して農家さんに派遣っていうスタイルをとっていると思うんですよね。北広島とか石狩の方とか。札幌市内は、そういうのあるんですかね。誰が派遣をしているのか。私が知った時は、派遣業を持っている農協が募集して、それぞれの農家さんで「今日、あそこの農家さんのところで手が足りないんだよね」ってことで派遣できると。ただ、自分でそこの場所には車で行かなくちゃいけない。派遣となると「業」が無いとできないけれども、でもそこまでしないと人が足りない。私、サロマの漁師さんも知っているんですけれど、漁師さんもみんな養殖をしているので、農家さんと同じなんですよね。ある時期だけ人が足りない。「そこだけ人が来てくれればいいのに」っていう話で、私１回手伝いに行ったことがあるんですよ、ホタテの稚貝を。それも経験しているんですけど、話がそれて申し訳ないんですけど、サロマの時に思ったのは、漁業の大変な時期と農業の大変な時期が違ったりするので、「人が入れ替わったら北海道の中でももっと人材交流できるな」ってその時思いました。それは置いといて、札幌市内だからこそ、そういう仕組みを作ってあげたらいいと思う農家さんがたくさんいます。でも、手伝いたい人もいっぱいいるんですよ。本当に小別沢の所はボランティアさんだけで成り立っているくらいで､何か毎日手伝いに来るおばさんもいるとか。お金を払っているわけではなく、手伝った分は農産物を渡したり、年に一回位は会食をするなど行っています。金銭的なものでないメンタルの部分で成り立っているけれども、ちょっと金銭的な仕組みも無いと長続きは厳しいのかなっていうのは、何年か続けて思ったところです。

●委員　今まで皆さんのお話を聞きながら、「なるほど、なるほど」と思って聞かせてもらっていました。お話の中に「食育」という言葉が出てきたと思うので、私の方で考えていることを少しお話させてもらせればと思います。食育は子供だけじゃなく全年齢の方々にすべき大切なものという風に言われていますが、なかなかそこが難しく本当はすごく農とくっ付いているはずなのに別々のものの様になっているように感じられます。先程お話が出ていた様に、例えば今、高齢者の健康問題ということでは「フレイル」の問題が出ていて、家の中に閉じこもってしまったことによって筋力が落ちて心も鬱になって、体も心も元気が無くなっていく、体が弱っていく状態を「フレイル」といいますが、例えば、畑

まで高齢者も一緒に車に乗せていただいて、そこでどの程度のお手伝いになるか分かりませんが、高齢者も元気になって、そして農家さん達も助かるという仕組みが１つ、大人の食育であるのかなと思ったりします。あと、子供達っていう意味では先程も「子供達が目を輝かせて」という話があったと思うんですけれど、本当にその通りで、例えば、親の仕事とかでも自営業の人というのは親がどんな形で仕事をしているか見えるけれども、会社員の人の子供達は親がどんな仕事をしているか分からない。それ位、同じ親でも近くで仕事をしているところが見れるか見れないかってすごく違うことで、食育の考えで言うと、とにかく子供達に畑に行ってもらって、どんな風に野菜が育って自分達の口に入るまで、どんなに大変な思いをしてるかっていうのを知るというのは、すごく大事だと思っています。それで、本学の栄養学科では学生が大学の横で農地を借りておりまして、そこで作物を作って収穫してという作業を授業の一環としてやっているんですけれども、やっぱりサボるんですね。「除草が大変だなんだ」って。そうすると、育たないんですよね。で、とうとう収穫の時期に「もっと除草頑張ればよかった」とか「頑張ったからこうなったんだ」って、大変さと共に育てたことの喜びとか、やりがいの様なことを口に出すので、こういう経験はやり直しがなかなかきかないので、特に作物は。だから後悔しても遅いことはあるんですけれども、人生においては、学生の授業としては失敗しても、これからの食育という意味では失敗は無いんじゃないかなっていう風に思っているので、学生にはどんどん参加させようと思っている授業なんですが。是非、例えばそういった時もウチの大学の畑だけじゃなくて、学生達って体力があるんですよ。ただ、学生に「空いた時間に来なさい」って言うと、学生達も色んな言い訳をして「忙しい」っていう風になるので、タイミングがなかなか合わないんですよね。なので、「是非こういう所に大学生が必要なんだよ。手を貸してほしいよ」という声をかけていただければ、こちらでコーディネイトして学生を送ることも出来るかななんて思っています。プツンプツンと切れるんじゃなくて、上手に地域のみんなで繋がっていけたらいいのかななんて思っています。すみません、まとまりの無い話で。

●委員　「さっぽろとれたてっこ」って、随分昔だと思うんですけど、そういう事業をやっていたと思うんですよね。主に三越で販売していたんですよね。それで私、駅の方に住んでいるもんですから、「駅の方のデパートでも販売するようにならないですか？」って、こういう話し合いの中でお伝えしたんですけど、結局はデパートとか販売店との交渉になるから、それは実現しなかったんですけど、一度、駅前の広場でテント張って、とれたてっこを売っていたことがあったんですけれど、あの「とれたてっこ事業」っていうのは無くなっちゃったんでしょうか。ここ最近、何年も三越に行っていないせいもあるんですけど、やっているんですか？

●札幌市　三越の方での販売は、もうしていないかと思います。それで、「とれたってこ」

については、認証制度ということで基準を設けて、生産した野菜について「とれたってこ」という名称で販売促進ということで進めてきておりましたけれども、先程の説明の中でも触れましたけれども、認証制度から、札幌産の農産物は全て「札幌とれたてっこ」ということで産地表示制度ということで変更した経緯がありまして、販売方法は、それぞれ「とれたてっこ」の幟ですとかそういったものを、直売所ですとかそういった所で表示して、「ここで札幌産の農産物を買えますよ」というＰＲをしていくっていう制度に変えたものですから、今まで「とれたて便」とかそういった形で市場から直接スーパーに朝採れたての物をすぐ販売するという仕組みは現在、無くなっております。

●委員　名称自体は、まだ残っているんですか？

●札幌市　はい、名称としては残っております。

●委員　守備範囲が狭いというか、他で見たことが無いもので。始まった頃は、４プラの前とか三越でも売ったりしていましたよね。最近、ここ何年も見ていないなーって。まあ、大通りまで行かないら、最近どうなのかなって思っていました。

●札幌市　皆様にあまり知られていない状況はあるかと思います。

●札幌市　前半が長くなりましたので、ここで休憩を取りまして、後半に移りたいと思います。ここの時計で15時15分まで７分少々、休憩をとりまして再開したいと思います。

●札幌市　時間となりましたので、次第の２番、議事の(2)「令和４年度の進捗状況」についてご説明します。

お配りしている資料４の左側「進捗状況調書①」をご覧ください。まず、基本理念の目標である「札幌産農産物を購入している市民の割合」ですけれども、この実績値は「市民意識調査」により把握しておりまして、令和４年度は調査年度ではないため「実績・評価なし」となっておりますが、引き続き目標達成に向けて、取り組んでまいります。

続きまして、ビジョンの３つの柱である「基本的な方向」の目標の進捗状況についてでございます。

基本的な方向Ｉの目標「意欲ある多様な担い手の農地利用面積割合」は、「経営耕地面積」のうち、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」が占める割合を示したものです。分子の「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地の面積」については、年度が変わってからの集計となるため、現時点では令和３年度の実績と同等と見込んでおります。

引き続き、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」が減少しないよう取り組んでまいります。

続いて、基本的な方向Ⅱの「地産地消の取組件数」ですが、さっぽろとれたてっこのロゴマークを活用する取組数を計上しております。札幌産農産物を市民に広く知ってもらうため、とれたてっこマークを掲げる箇所を増やす取組を行っております。

令和４年度は、コロナ禍で農産物直売所等の需要が高まったこともありまして、西区の直売所と新規就農者を中心に令和３年度から 20 件程度増加し、目標の年間 20 件を達成することができました。今後も継続して取り組んでいきます。

最後に、基本的な方向Ⅲの「農業に関心のある市民の割合」ですけれども、こちらも基本理念と同じく、令和４年度は「実績・評価なし」ですが、引き続き、目標の達成に向けて各種取組を推進していきます。

次に資料の右側「進捗状況調書②」をご覧ください。「後期アクションプランの進捗状況」について、説明いたします。

基本的な方向Ⅰの（1）「多様な農業の担い手の育成・確保」では、２つの達成目標を設けております。

目標１「就農６年目における定着率」については、令和４年度に４経営体が６年目を迎えましたが、全て営農を継続しており、100％となっております。

目標２「他産業から農業に参入した法人数」は、目標が年間２法人増のところ、これまでに２法人が参入し、目標を達成しております。

次にⅠの(2)「農地の保全と活用」では２つの達成目標を設けております。

目標１「意欲ある多様な担い手の農地利用面積」は、例年２月下旬に実施される国の調査により実績値が算出されるため、未確定ですが、大きくは変わらない見込みであることから、令和３年度の実績を入れております。

目標２「認定市民農園の開設数」は、令和４年度は新たな開設、廃止はありませんでした。開設相談は数件ありましたが、認定の手続きには至っていない状況です。コロナ禍で屋外の活動にニーズが高まっていることから、市民のニーズに沿った農園が整備されるよう、制度の運用について検討するとともに開設者の相談に対応していきます。

次に、Ⅱの（1）「農業経営の安定強化」の目標１「農産物の安全・安心向上のための土壌診断実施数」は令和３年度と変わらず 180 件の見込みとなっております。土壌分析により、作物別に適切な施肥設計が行われるよう、適切に診断を実施していきます。

目標２「未利用都市廃棄物の農業利用に取り組む農業者数」については 42 人と、令和３年度と同程度となりました。目標である 50 人を若干下回っておりますが、定期的に必要なものではないため、人数の増減はありますが、異物の混入防止や質の向上等、取組の改善についても検討してまいります。

Ⅱの(2)「地区ごとの農業の個性を生かした多様な取組の推進」の目標１「地域資源を活用し、農業者が連携して取り組むイベント等の回数」につきましては、新型コロナウィ

ルスの影響を受けまして、中止となったイベントがある一方で、開催方法を工夫して実施されたものが多くあり、18 回と目標の 10 回を達成しております。

目標２「農業交流関連施設の開設数」について、１か所開設されておりますが、認定は２件ありまして、もう１か所は令和６年度に開設予定となっております。今後も、制度のＰＲや相談対応により６次産業化に取り組む農業者を支援してまいります。

最後にⅢの「市民の農業に対する理解促進」では、３つの目標を設定しております。

目標１「市民農業体験参加者数」は、コロナ禍で屋外の活動や「食と農」に関心が高まっておりまして、サッポロさとらんどにおける市民農業体験参加者数は、コロナ前の令和元年度までは 5.7 万人前後で推移しておりましたが、コロナ禍の令和２年度～令和４年度で 7.3 万人前後と約 1.3 倍に増加しています。この様な機会を逃さずに参加者を増やして「市民の農への理解」の促進をして進めてまいりたいと思います。

目標２「サッポロさとらんどの入園者数」は、年度末の見込みで 40 万人と、新型コロナウィルスへの対策を徹底して開園していることもあり、入場者数は回復してきていることから、引き続き利用者数の増加に努めてまいります。

目標３「サッポロさとらんどを利用した人の満足度」びついて、は 90.8%と若干減少しましたが、目標の 90%を達成していることから、引き続き目標を達成できるよう、運営管理に努めてまいります。

以上が、目標の達成状況になります。

次いで、資料を一枚めくっていただきまして、２ページ「進捗状況調書③をご覧ください。

昨年度から、他部局におけます「農」に関連する取組を一覧にまとめています。農に関連する取組は「食育」や「環境」、「鳥獣被害防止対策」、「流通」など多岐にわたります。アクションプランでは、関係する部局と連携して取り組むこととしており、既に連携して取り組んでいるものもありますが、他部局が独自に取り組んでいるものもございます。

詳細については説明いたしませんが、連携できるものについては更に推進し、アクションプランの目標達成に向けて取り組んでまいります。

●札幌市　それでは、質疑・意見交換に移りたいと思います。

項目ごとに基本的な方向Ⅰ～Ⅲと、順番にお気付きの点ですとかご意見等あればお願いしたいと思います。まず、基本的な方向Ⅰ「意欲ある多様な担い手が輝く「さっぽろ農業」」、これにつきましてご意見等あれば、お伺いいたします。

●委員　先程から申しています様に、農地をどういう風に維持していくのかって、今が分かれ道になってくると思うんですけど、市街化区域にある以外の所はもう、逆に言ったらほぼ済んでいて、宅地並み課税というか、そういった所についてはもう、なかなか難しい

のかなっていうところまできているのかどうか。宅地並み課税の優遇措置とかって札幌市は無かったでしたっけ？

●**札幌市**　無いです。

●**委員**　そこもやっぱ含めて考えていかないと、下手したら担い手への集積っていうのも今後なかなか難しいのかなって考えているかどうか。先程、今後の課題だっていうところでも出てきたと思うんですけど、農地を保全していくにあたって、市街化区域内に農地が残っているということ自体の価値というか、もし大きな震災が来た時にみんな避難所としても使うわけですし。農地を農地のまま維持してくださっている方々に対する優遇措置は、当然やっていくべきと考えているのかどうか。生産とか多面的機能もそうですけど、＋αの有事の際も含めて、札幌市として少なからず残った農地を、どういう風に維持していくのかっていうとこは、出していった方がいいのかなっていうところだと思います。それで、実績としての73％は、それなりに担い手への集積が進んでいるなかなという感じもするんですけども、これが区分け上の市街化区域とそれ以外の部分とでどういう風になっているのかなと教えていただければなと。

●**札幌市**　この農地利用面積割合の農地については、全て市街化調整区域の農地になっておりまして、農家戸数が減る中で農家１戸当たりの平均の耕作面積は、大体２ha程度をずうっと維持されている様な状況で、離農された農地については他の担い手の方に集積されているという状況が続いております。市街化区域内の農地については、宅地並み課税といいますか、税率が年々上がってきているという状況にはなっているかと思うんですが、我々の方もその辺、正確に市街化区域内の農地の所有者の方の声というのを把握していないということもありまして、主に首都圏のですとか三大都市圏の生産緑地という制度がありますけども、札幌市はそれをとっておりませんので、全く市街化区域内の農地を施策の中に位置付けてきていないという状況でございます。ですので、それも含めて今後の第３次のビジョンの中で調査をして、正確な状況・情報というのを抑えて、進めていきたいという風に考えています。

●**札幌市**　ちょっと補足のような形になりますけども、これまで我々、「農業振興というのは市街地の外でやるものだ」という風な前提で進めていたというところがあります。それが、そういう時代ではない、色んな多面的な役割だとかも考えると、そうはならなくなってきたと。で、これは我々だけの問題ではないものですから、札幌市として、まちづくりをどう進めようかという様な考えの中で、この市街化区域の農地というのも我々、考えていくことになるのかなと思っております。ある意味、これまで取り掛かったことのない所に取り掛かるいという様なことなのかなと思っています。

●**札幌市**　では、順番に進めていきたいと思います。次の基本的な方向Ⅱの「市民に信頼される持続可能な「さっぽろ農業」」につきましては、地産地消の取組件数年間20件増ということで記載しております。「とれたてっこマーク」を掲げるという取り組みをしておりますけれども、これに関してご意見等あれば宜しくお願いいたします。

●**札幌市**　では、無ければ次に進めていきます。後期アクションプランの進捗状況のそれぞれの目標と実績ということで、基本的な方向Ⅰに関しまして、「多様な農業の担い手の育成・確保」、「農地の保全と活用」、それぞれ実績をお示ししておりますけれども、これについてご意見・ご質問等あればお願いいたします。

●**委員**　先程、ご説明の中で「農地の保全と活用」の目標２の認定市民農園の開設数のところで、「相談を受けたんだけど手続きには至っていない」というのは、具体的に何が課題だったのかっていうのをもうちょっと教えていただきたいと思います。

●**札幌市**　具体的に何か課題があってということではなくて、営農の一環として、ちょっと考えたいということで相談があったんですけれども、具体的に開設するというところまで進んでいなかったということになります。

●**委員**　その場合は､農地を持たないでやる農業の相談という形になるんですか？例えば、水耕栽培っていうか、ハウス…。農地じゃなくても出来る農業ってありますよね、違う産業の方だと。どうなんですか？

●**札幌市**　建物の中での、ビルの一室を使った植物工場とかですかね。

●**委員**　例えば、札幌は分からないですけれど、私、新潟で視察しているんですけど、「エディブルフラワー」って食べられるお花ありますよね？園芸の人達なんで野菜じゃないんですよね。で、ハウスの中でポットで花を育てているのを、無農薬で栽培して、それを野菜扱いみたいな形で、生花卸ではなく青果卸に出荷している人達がすごく増えているんですけど、そういう人達は他産業であり、農地を持たないで農業に入っていると思えばいいんですか？

●**委員**　市民農園の話と今の話は、だいぶ違うのではないか？

●**委員**　市民農園ではないんですよ。「他産業から農業に参入した法人数」っていうのがあったんですけど。私は、ちょっとそのくらいしか分からないんですけど、「そういう様な農業も、ここには相談できるのか」とか「数に入るのか」とか。私、「そういうのやっ

たらどうですか？」っていうお話をしている方達もいるんですよ。「売上の一つにそういうお花を作ったらどうですか？」とか。で、場合によって農地持たない人もできるんじゃないかなってちょっと思って。そういう相談して、もしＯＫだったら「相談数に入って数が増えていくのか」とか。

●**札幌市**　生産物というところで考えれば､モデル生産の一環ということになりますので、今の農地転用に関しても例えば農地をコンクリートで固めて、そこにハウスを作ったとしても農業として認められますので、それと同じ様に建物の一室であったりとか、農地ではない所にハウスを建ててというのも、新たに農業への参入してきた法人といいますか、農業生産になると思います。

●**札幌市**　それでは一旦、一通り順番に進めてまいります。次の基本的な方向Ⅱ、「農業経営の安定強化」と「地区ごとの農業の個性を生かした多様な取組の推進」ということで、それぞれ実績を示しておりますけれども、この項目に対しましてご意見・ご質問等あればお願いいたします。

●**委員**　先程の「多様な農業の担い手の育成・確保」で、「就農６年目における定着率」は何軒の農家が100％定着したのか。そのベースが分からないので。

●**札幌市**　これについては、認定新規就農者ということで５年間、国の方から資金が支給されるんですけども、それを過ぎた６年目以降の定着率ということで数字をあげておりまして、今回の100％については４軒の新規就農者になります。ちょっと今正確な数字は無いんですけれども、認定新規就農者ということでこれまで30名前後いるかと思うんですけれども、そういった方は皆さん営農を継続されている状況ではあります。

●**委員**　基本的な方向Ⅱの「地区ごとの農業の個性を生かした多様な取組の推進」のところの質問なんですけれど宜しいでしょうか。そこで目標１の「地域資源を活用し、農業者が連携して取り組むイベント」のところで、「中止になったイベントがある一方で、開催方法を工夫して実施されたものもあって」っていう形だったのは、例えばどんな工夫でどんなことがあったのか、ちょっと参考までにお聞かせいただければと思います。

●**札幌市**　例えばですね、清田区の方で「きよたマルシェ」というものを開催していたんですけれども、開催規模を縮小して回数を増やすという形。例えば、「軽トラを何台も集めて開催していたものを１台にして小規模に開催する」ですとか、そういった形で集まる人数を少なくできる様な開催方法で開催されたというのがございました。

●**委員**　その数には、さとらんどでやっている様なイベントは入っていないんですか？今の18回に。

●**札幌市**　さとらんどにつきましては、苗物市ですとかそういったものの開催を中止してしまっていますので、ここでは「さとの収穫祭」と「たまねぎフェア」の２回しか計上されていないですね。

●**委員**　ここ、札幌市の面白いところかなと思うんですけど、都市農業と言いつつも土壌診断実績で180件、これは圃場ごとにっていう感じですかね。産地支援機能として道内でも有数の産地ではこういうことをやっているんですけども、都市農業と言いながらこういう機能はしっかり持っていて、でも、むしろ首都圏を視野に入れて生産緑地とかはそれはこれからだったり、ここのミスマッチというか、都市農業と言われつつも実際持っている営農支援機能はどっちかっていうと産地型であって都市農業的じゃない。でも、実際的に見ると都市農業的な側面を持っている。ここの自治体としての支援策と、実際の産地のミスマッチが、今後のビジョンをやる時の整理しどころなのかなっていう気持ちで面白いなって。でも、これはすごい大事なことですし。先程もお話聞いて、「さっぽろとれたてっこ」の認証事業も土壌分析が前提なんですもんね。だからそういうこともやって、市が基盤としてもやっているから、「さっぽろとれたてっこ」やるんだったら土壌分析をやると。将来的に見ると、こういうことを市が請け負っているから安全・安心というのも謳いやすくなっているという。これは都市農業としてもすごく重要なんですけど、そもそもの大産地としての名残が、こういうことを行政にもやらせているというのが実は大事なところなんじゃないかという気もしているんですよね。負担も大変でしょうけど。

●**委員**　今、土壌検査の話が出ましたけれども、農協としても、いま肥料が上がったとか経営に対して負担がかかっているということで、農協自体もそういう様な施設といいますか機械を導入いたしまして、「無駄な肥料は使わない」とか「無駄な農薬は使わない」、「如何にして生産費を下げるか」。ちゃんとした物を入れないとダメなんで、そういう検査をキチンとした中で営農してもらう。今年でしたか、去年でしたかウチで導入したの。さとらんどもやってますけども、農協としても生産者になるべく余計なものは使わない。そんな様な体制をとらせていただいています。

●**委員**　今、低コストの部分で土壌分析ってこれから重要っていうのは仰る通りだと思うんですけど、本当に「余計なものは入れない」と。私達自身が知らないといけないのは、タマネギって連作がきくんですよ。連作でずうっとやってきて、土壌の管理って非常に大変なんじゃないかなっていうか、下手にしたらタマネギでも色んな病気も出るでしょうし、単純に低農薬とか無農薬とかっていうことにもいかないところってありますよね。やっぱ

り、ある程度の資材は使いながら安定生産を図って連作としてのタマネギをやって、だからこそ札幌黄が守られているっていうところもあるとは思うんですよね。そこらへんの兼ね合いというか生産の難しいところっていうか、そういったところも是非、情報発信していった方が良いのかなと思いました。

●**委員**　この辺はですね、タマネギが多いですけども、ウチは結構、生産者がハウスをやっているんですよ。そんなことで、ハウスも連作だとか作物に関係ありますんで、そういうことで検査をキチンとして、ただ、職員が大変なんですよ。指導するのに。そういう面では、職員に負担をかけているのかなぁっていう、そんな感じはしています。

●**委員**　先程の、「取り組むイベント等」ってありますけど、大体マルシェだけになっているんですかね？他に何か違うイベントってやられているんですか？

●**札幌市**　マルシェですとか苗物市ですとか、あと収穫祭ですとか、そういったものですね。

●**委員**　青年部の中でもですね、新規就農者の方がいらっしゃって、必要なのは労働力な訳で、夏場に女性もそうなんですけど、男性のフルに働いてくれる人を求めていたりします。でもですね、この時期、冬の間は仕事が無いんですよね。昔からその土地に住んでいる人なら、「こっちの仕事をやってもらおう」とかそういうのはあるかもしれないんですけど、若くて新規で農業だけをやっている人っていうのは、冬の間に仕事をさせてあげることが出来ないんですよね。だから「冬の間だけでもできる仕事を連携して紹介してくれる」だとか、そういう支援もあれば新しい農業者が人を雇ってやっていくっていうこともできると思うので、そういうことも考えてみてもらいたいなと思います。

●**札幌市**　有難うございます。では、順番に進めていきたいと思います。次に基本的な方向Ⅲ「市民の農業に対する理解促進」についてですけれども、目標を３つ設けておりますが、何かご意見等ありましたらお願いいたします。

●**委員**　目標３に「満足度」っていうのがあるんですけれども、例えば大学でも「満足度調査」っていうのはあるんですけれども、どの様なことを聞いているのかなって思いました。「満足しましたか？しませんか？」という様なことなのか、それとも内容まで聞いているのか。つまり、あと約１割の人は、どんなところに不満というか、逆にどういう様にすると満足度が伸びていくのかなっていう意味で直接、利用者の声をお聞かせいただければと思いました。如何でしょうか。

●**札幌市**　詳細は把握できていませんので、調べて後日、お知らせしたいと思います。

●**委員**　設定当初の段階で、令和２年が基準になっちゃっているんですけど、基本的な方向Ⅲのとおり「サッポロさとらんど入園者数」は、コロナでこれだけ見ると、いま皆さんが見ている資料４だけで見ると、26.5万人から19万人まで減って、40万人に復活して良かったなっていうことなんですけども、資料３で見ると、サッポロさとらんど、以前は70万人弱だということであると、そこまで復活していないというか、むしろまだまだ色々課題があるっていうか。ここに復活できるかっていうのを目指すべきなのかどうかっていうのもあると思うんですけど、一応目標年には75万人ですので、それでいうとやっぱり減少して戻っていないって考えた方がいいんでしょうかね。

●**委員**　それに付随して私の方から。当組合の工場も、さとらんどの隣にあります。開設が平成６年ですか。その時からは工場の見学とか色んな絡みで多分年間30～40万人の人が来られました。ただ、このコロナの関係で、食品も扱っているもんですから人の交差も工場内ではできないっていう制限がある中では､やっぱり年間２～３万人までは落ちました。多分さとらんども同じなんですよね。指定管理者の関係が５年に１回ですか。ある程度、センターハウスとかなんかで食事の関係も最初の頃はありましたし、色んなアクティビティもあったんでしょうけど、段々人が来無くなれば活動が減っていくのが現状ですので。今のところ、コロナ禍でみなさん食料の関係とかなんか、有料ですけど農園が作れるということ。また、冬に色んなアクティビティも考え始めたということで、やっぱりここが札幌市の拠点として活動してもらわないと、これが消費者に対するアピールの場所かなと思っております。「有効な活動を皆さんでお考えいただきながら進めていきましょう」ということで、お互いそうするとウチらも助かりますので。モエレの山もありますんで、色んな案件で。ただ、交通の便だけはどうしてもネックになっているのかなと思っています。ただ、見せる場所として提案する時期なのかなと思っていますので宜しくお願いします。

●**札幌市**　さとらんどにつきましては、平成元年に開設ということで、施設の老朽化とかそういったものもございます。最大で70万人を超える入場者数もあったんですけれども、当然まだ、そこには全くまだ届いていない状況ではあります。現在、進めているところとしてはハード面といいますか、老朽化した木製遊具を昨年の工事で新しい物に更新しております。で、次のゴールデンウィークから解放する予定になっておりますし、昨年の10月にはセンターハウスの２階にキッズコーナーということで、未就学の小さいお子さんを対象にした、道産の木材を使った木育というものを兼ね備えた施設もオープンしておりますので、そういった新しい施設整備ってことについて皆さんにＰＲして、入場者数の増加っていうのを進めていきたいなという風に思っておりますし、指定管理者が新しく替わるというのもありますし、お隣さんのサツラクさんとの連携なり新たな取り組みということを

積極的に進めていきたいと考えております。で、さとらんど全体として、やはり再整備というところも考えていかなきゃいけないということも内部では話しておりまして、これから何年かかけて色んな意見を聞きながら、さとらんど全体の魅力アップに繋がる様な再整備計画というものを考えていきたいという風に考えているところです。

●**委員**　まさに仰るとおりで、先程もありましたけども、ここはやっぱり入り口というか拠点として、コロナでも、「コロナだからこそ安心して子供達を連れて来られる場所・食育の場所」って実はすごい大事で、そこはしっかりと皆で考えていかなければいけないことだと思うんですけど、あとやっぱりもう一つ、「市民農業体験参加者数」は間違いなく純増というか、そういうところなんですよね。そう考えてよろしいですか？

●**札幌市**　そうですね。特に収穫体験農園につきましては、コロナ前と比べまして、コロナの拡がりに合わせて逆に体験者数が増えているという状況で、やはり屋外での活動に皆さんやはり注目されたというのが非常に大きかったと思いますので、収穫物が足りないっていう状況にもなったという風に聞いております。そういった意味で新たな利用者っていいますか、そういった開拓が進んでいるかなと思いますので、そういったところも力を入れていきたいと思っております。

●**委員**　そういう意味でも、先程の認定市民農園の支援っていうかですね、そういう相談も含めてリンクしてくることだと思います。これはチャンスというか、やっぱり逃したくないところですよね。こうやって市民農園というか、土をいじったり、もしくは食料が不安定だからこそ食に対する関心が高まっていて、これを活かしながら、さとらんどを中心にどういう風にファンというか、当たり前の市民生活として札幌は土を子供の頃からいじれる生活が出来るみたいな、そういう様な雰囲気を作って行けたらなと思いました。

●**札幌市**　時間の方もだいぶ経過しておりますので、全体を通してでも結構ですので、何かご意見ですとかありましたら宜しくお願いいたします。

●**委員**　すみません、一点だけ。資料裏面の件でも宜しいですよね？資料４のところで、札幌産の野菜を学校給食で活用しているのは、我が校の給食でもよく知っていることなんですけども、札幌の市立の保育園もあるかと思うんですが、保育園に対してこういった食材の提供というのは出てこないんですが、そういったあたりはどの様に考えられているんでしょうか。

●**札幌市**　保育園に関しては、これまで特に取り組んできてはいませんので、ちょっと把握はしていない状況なんですけども、小中学校の学校給食はＪＡさっぽろさんを通じて、

学校給食に継続的に提供させていただいているところであります。保育園ですと、給食があったりとか無かったりとか色々状況があるので、いま状況を把握していないところがあるので、今お答えできない状況であります。

●**委員**　ただ、食育の場としては、学校よりも単位が小さいので、むしろ数が揃わなくても。札幌市さんの場合は数がある程度揃わないと給食として提供しにくいと思うんですけど、保育園はむしろ少なくても提供できるっていうことと、食育という意味では子供達には「いや、何食べても分からないでしょう」と思っているもかもしれないんですが、例えばそれを親達に伝える効果とかっていうのもあると思うんですよね。そういった意味では、美味しい食材を小さなうちから食べられるっていうのも大事ですし、やっぱり親への教育という意味では、いい市立の保育園がありますので、上手に利用していくっていうのもいいのかなっていう風に思いました。以上です。

●**札幌市**　有難うございます。

●**委員**　最後の２ページ目の進捗状況の「札幌黄のＰＲ事業」ってあるの、先程私もタマネギの話ばっかりして、実は施設園芸のもっと多様な物も野菜も作られていますし、手稲の方に行けば砂地というかそれを利用したスイカやカボチャの産地でもあるとか、様々な物があると思うんですけど、地域のそれぞれの多様性を活かすっていう意味では地域ごとの特菜っていうか、まだ他にもある物も（札幌）黄もあって、それも大事なんですけど、＋αで多様な物はどう見せていくのかっていうＰＲの方向も必要かなと思ったんですけれど、それも入ってどこかで行うっていうか、施策としてあげていますか？

●**札幌市**　支援センターの方では、ＪＡ札幌さんで伝統野菜ということで、札幌の名前が付く野菜ですね、そちらの方の「札幌大球」ですとか伝統的な野菜の取組っていうのをされておりますので、それに合わせた形で採種の面だったり展示の栽培だったり試作ですとか。で、新規就農者の方で「サトホロ」っていう札幌市が育成したイチゴの品種もあるんですけれども、そういったものをやりたいという方がいらっしゃいますので、ウィルスフリー苗を作ってＪＡさんを通じて販売していただいたりとか、そういう取組をしております。

●**委員**　一点、お願いというか宜しいでしょうか。資料４になるのかな。一番上の「循環型農業の推進」ということで、他部局における「農」に関連する取組のところで、「草・枝・葉」というのは、家庭から出てきた剪定枝とかを堆肥化して供給するって意図ですよね？

●**札幌市**　そうですね。「枝・葉・草堆肥」ということで、剪定枝とか落ち葉とかを集めたもので堆肥化しています。

●**委員**　我々の中で色々な研究というか考え方なんですが、札幌の場合、下水汚泥ですよね？前、「札幌コンポスト」ってありましたけれども、今その事業は無くなったんですが、やはりこれから、これだけ肥料高騰を受けて、窒素・リン酸・カリが他所の国だし原料が手に入らないという状況なんで、やっぱり下水汚泥の堆肥化っていうか、今後、考えていかなきゃならない要素だと思うんで、是非とも札幌市としても取り組んでいただきたいなと強くお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

●**札幌市**　確か、神戸か何処か他の都市でコンポストと、下水汚泥から窒素分を取り出す肥料ということで、肥料高騰の中で非常に注目されていたっていうことがありまして、札幌市も下水のコンポストがあったはずだなと思ったんですけど、いつの間にか無くなっておりまして、市の中で連携して取り組んでいく必要があるかなという風には思います。

●**札幌市**　時間も16時を回りましたので、特に最後、「何か一言」というのはございませんでしょうか。無ければ終了としたいと思いますが宜しいでしょうか？

　そうしましたら、これをもちまして令和４年度の第２次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を終了いたします。本日は路面状況の悪い中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。

以　　上